

第 1 章

乳幼児の メディア利用の実態



久保木 有希子 (1～2節・5節)

田村 徳子 (3～4節・7節)

高岡 純子 (6節・8節)



第1節 家庭のメディア所有状況

乳幼児のいる家庭のメディア所有状況は、2013年の前回調査と比較してタブレット端末所有率と母親のスマートフォン所有率が増加し、それぞれ38.4%と92.4%だった。ビデオ・DVDやパソコン、ゲーム機、携帯電話の所有率は減少した。タブレット端末やスマートフォンといったモバイルメディアの子ども専用機の所有率はこの4年間で大きな変化はみられず、4歳以降で携帯型ゲーム機が増えた。

●乳幼児の母親のスマートフォン所有率は4年前の60.5%から92.4%に増加

乳幼児のいる家庭に、メディアはどのくらい浸透しているのだろうか。家庭での所有の有無をたずねた。なお、スマートフォンと携帯電話は、母親と父親それぞれについての使用の有無をたずねており、母親の結果を示している。

結果をみると(図1-1-1)、2017年では、「テレビ」は98.3%、「ビデオ・DVD」は82.5%、「パソコン」は76.5%が所有していた。

ゲーム機についても聞いており、2017年では、「据え置き型のゲーム機」は35.2%、「携帯型ゲーム機」は33.1%と、ともに約3分の1の家庭で所有していた。

モバイルメディアは、2017年では「タブレット端末」は38.4%、「スマートフォン(母親)」は92.4%、「携帯電話(母親)」は11.2%が所有していた。

経年でみると、前回調査(2013年)から所有率が増加したのが「スマートフォン」(31.9ポイント増加)と「タブレット端末」(9.1ポイント増加)で、それ以外のメディアは所有率が前回から減少した。とくに「携帯電話」は前回から32.1ポイントの減少ともっとも大きく減少しており、そのぶん「スマートフォン」が増加したと考えられる。

家庭でのネットワーク環境はどうか(図1-1-2)。2017年では、約9割の家庭でネットワーク環境があり、複数回答で「有線LAN」は14.4%、「無線LAN」は74.4%

だった。経年でみると、前回調査(2013年)よりも「有線LAN」の割合が減少し、「無線LAN」の割合が増加した。この傾向は、無線での使用が基本となるタブレット端末やスマートフォンの所有率が増加していることと関連していると考えられる。

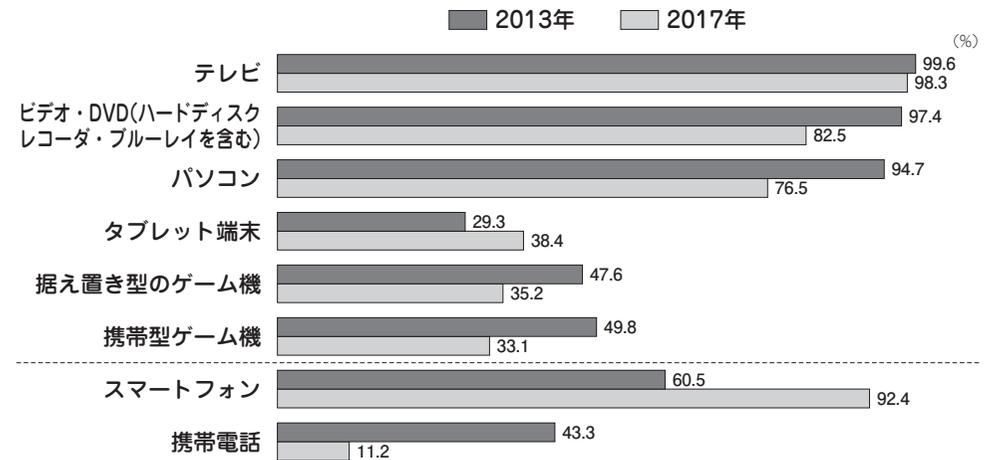
●「スマートフォン」は、今回、すべての年齢において所有率が9割近くまたはそれ以上と大きく増加

乳幼児のいる家庭にあるメディアを子どもの年齢別にみると、図1-1-3のようになった(2017年のみ)。「テレビ」は、子どもがいずれの年齢でも9割を超えており、多くの家庭で所有していた。2013年の前回調査では、「ビデオ・DVD」「パソコン」も全年齢で9割を超えていたが(詳細値は本報告書では割愛)、今回の調査では7~8割にとどまった。一方、前回の調査で5~6割だった「スマートフォン」は、今回、すべての年齢において所有率が9割近くまたはそれ以上と大きく増加した。

子どもの年齢が大きくなるほど持っているのが「ビデオ・DVD」「パソコン」「携帯電話」であり、子どもの年齢が小さくなるほど持っている傾向があるのが「スマートフォン」だった。

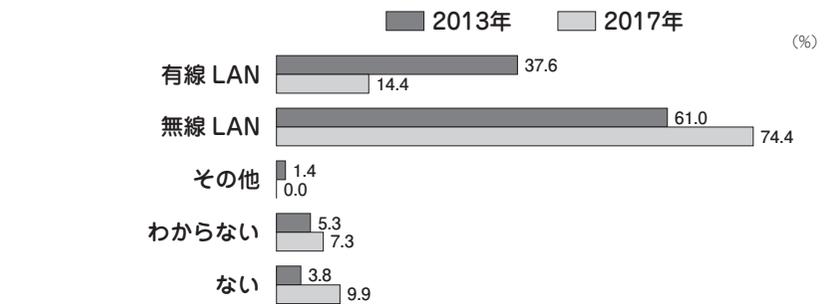
「タブレット端末」「据え置き型のゲーム機」「携帯型ゲーム機」は、子どもがいずれの年齢でも大きな差はみられず、現段階では所有していない家庭のほうが多数である。

図1-1-1 家庭でのメディア所有率(経年比較)



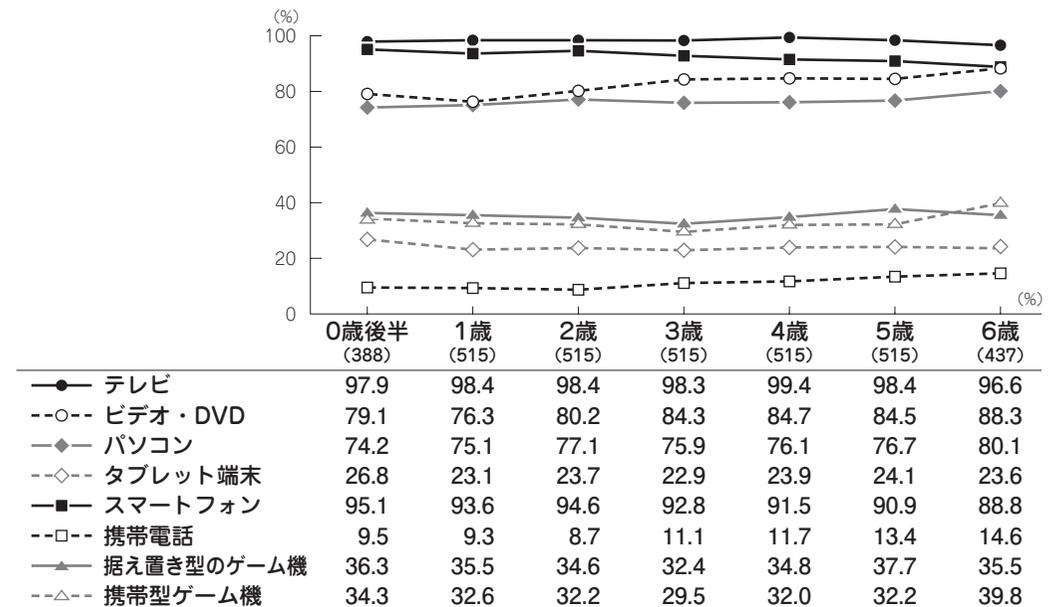
注1) 複数回答。
注2) 「スマートフォン」「携帯電話」は母親が使用している割合の数値。
注3) 2013年は無答不明を除く。

図1-1-2 家庭でのネットワーク環境(経年比較)



注1) 複数回答。
注2) 2013年は無答不明を除く。

図1-1-3 家庭でのメディア所有率(子どもの年齢別、2017年)



注1) 「スマートフォン」「携帯電話」は母親が使用している割合の数値。
注2) ()内はサンプル数。

●母親の年齢が下がるほど、スマートフォンを所有。年代別の所有率の差は縮小傾向

乳幼児のいる家庭でのメディア所有率を母親の年齢別にみたのが表1-1-1である(2017年のみ)。母親の年齢があがるほど持っているのが「ビデオ・DVD」「携帯電話」であり、母親の年齢が下がるほど持っているのが「スマートフォン」「据え置き型のゲーム機」だった。

表には示していないが、2013年の前回調査と比較すると、母親の年代による所有率の差が全体的に縮小している。例えば、母親の年代による最高値と最低値が10ポイント以上差のあったものは、前回調査では「パソコン」「スマートフォン」「据え置き型のゲーム機」「携帯型ゲーム機」だったのが、今回調査では「パソコン」と「携帯電話」のみとなっている。

●子ども専用の携帯型ゲーム機の所有率は、子どもが4歳で1割、5歳で2割、6歳で4割弱

乳幼児のいる家庭に、子ども専用のモバイルメディアはどのくらいあるだろうか。子ども専用のモバイルメディア所有率を経年比較してみたのが表1-1-2である。2017年の数値をみると、「パソコン」「タブレット端末」

「スマートフォン」は、いずれの年齢でも「子ども専用はない」が9割以上である。経年で見ると、2013年の前回調査と比較して5ポイント以上の差があったものはなく、子ども専用のモバイルメディア所有率には大きな変化はみられなかった。

一方、「携帯型ゲーム機」は、「子ども用に購入」と「親のおさがり」を合計すると、4歳9.7%、5歳19.2%、6歳37.4%と4歳以降で子ども専用が増えていく。そのうち、子どもの年齢が低いほど「親のおさがりを持っている」比率が高いが、「子ども用に購入した」が子どもの年齢とともに増加している(図1-1-4)。

●乳幼児のいる家庭では、新しいメディアが身近な存在に

「タブレット端末」や「スマートフォン」は、複数の機能をいつでもどこでも双方向的に、簡単な操作で楽しめるメディアである。今回の調査から、家庭においてこの数年間で新しいメディアが普及し、テレビを除く従来型のメディアが減少する傾向がみられた。

また、子ども専用のモバイルメディア所有率には大きな変化はみられず、携帯型ゲーム機のみを所有している傾向がみられたが、今後、「タブレット端末」や「スマートフォン」をはじめとするメディア所有の低年齢化が進むかどうか注目する必要があるだろう。

表1-1-1 家庭でのメディア所有率(母親の年齢別、2017年)

	29歳以下 (681)	30-34歳 (1288)	35-39歳 (936)	40歳以上 (495)
テレビ	98.1	98.7	98.3	97.4
ビデオ・DVD(ハードディスクレコーダ・ブルーレイを含む)	78.4	83.0	83.1	85.5
パソコン	61.8	75.9	82.8	86.1
タブレット端末	34.2	37.2	40.5	43.4
据え置き型のゲーム機	36.1	37.2	35.6	28.1
携帯型ゲーム機	34.8	33.4	33.9	28.3
スマートフォン	95.6	93.5	90.9	88.3
携帯電話	6.6	9.2	14.3	16.8

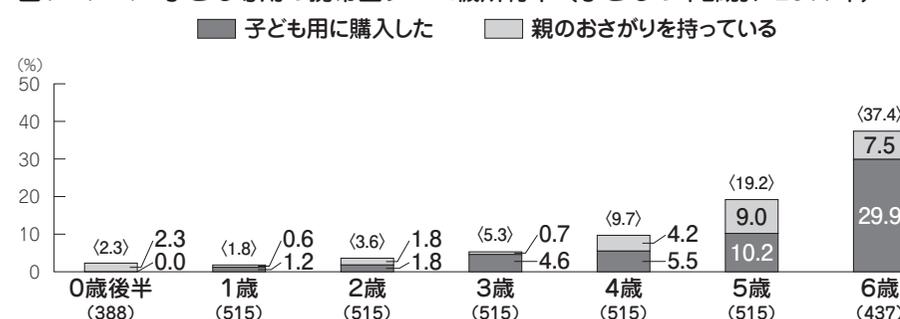
注1) 複数回答。
 注2) 「スマートフォン」「携帯電話」は母親が使用している割合の数値。
 注3) ()内はサンプル数。
 注4) 網かけは、母親の年代による最高値と最低値に10ポイント以上差があるもの。

表1-1-2 子ども専用のメディア所有率(経年比較)

	2013	2017	
パソコン	子ども用に購入	0.4	0.3
	親のおさがり	1.7	1.0
	その他	—	0.0
	子ども専用はない	97.8	98.7
タブレット端末	子ども用に購入	1.0	2.1
	親のおさがり	0.9	2.3
	その他	—	0.0
	子ども専用はない	98.2	95.6
スマートフォン	子ども用に購入	0.1	0.3
	親のおさがり	1.1	3.1
	その他	—	0.0
	子ども専用はない	98.8	96.6
携帯型ゲーム機	子ども用に購入	4.5	8.0
	親のおさがり	4.1	3.8
	その他	—	0.2
	子ども専用はない	91.4	88.0

注) 2013年は無答不明を除く。

図1-1-4 子ども専用の携帯型ゲーム機所有率(子どもの年齢別、2017年)



注1) ()内は「子ども用に購入した」+「親のおさがりを持っている」の合計値。
 注2) ()内はサンプル数。